

大分市

# 学力向上 ハンドブック



大分市教育委員会

# 大分市学力向上ハンドブックについて

## 作成の目的について

本ハンドブックは、大分市学校教育指導方針に示す9つの重要課題のうち、Ⅲ「確かな学力の定着・向上」の達成に向けた、各学校における取組のポイントを示しています。

作成に当たっては、各種学力調査結果等から見える本市の現状と課題をもとに、授業改善の視点だけでなく、家庭学習や補充学習等様々な視点からも、内容を検討しました。

各学校においては、本ハンドブックを校内研修や教科部会等で活用し、今後の取組を検討する際の参考とするなど、「確かな学力の定着・向上」に向けた組織的な取組が一層推進されることを期待しています。

## 構成について

内容	本市の現状（各種学力調査結果より）	取組のポイント	頁
授業改善	・「自ら課題を設定し、解決に向けて話し合うなどの学習活動を取り入れた」学校の割合は、小中学校ともに全国を下回っている。 ・「話し合いを通じて自分の考えを広げることができている」児童生徒の割合は、小学校では全国を下回っており、中学校では全国を上回っている。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	P1
		シンプル指導案や板書計画の活用	P2
		見通しと振り返りのある問題解決的な授業	P2
		授業研究、互見授業等を通じた教科部会等	P3
各種学力調査の活用	・「学校全体で成果や課題を共有している」学校の割合は、小中学校ともに全国を下回っている。 ・「学校全体で教育活動を改善するために活用している」学校の割合は、小中学校ともに全国を上回っている。	調査結果の分析による課題の共通理解	P4
		調査結果の分析を踏まえた教育課程の改善	P4
家庭学習の充実	・「家庭学習の時間」は、小中学校ともに全国を上回っている。 ・「授業の予習をしている」児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を下回っている。	保護者と連携した家庭学習の充実	P5
		授業と連動した家庭学習の実施	P5
補充学習の充実	・「補充的な学習サポートを実施している」学校の割合は、小学校では全国を上回っており、中学校では全国を下回っている。	内容・方法を創意工夫した計画的な実施	P6
		習熟の程度に応じた課題の設定	P6
ICTの効果的な活用	・「ICTを活用した学習指導を行った」学校の割合は、小中学校ともに全国を上回っているものの、教科によって活用状況に差が見られる。	ねらいに応じた活用場面や方法の工夫	P7
		子どもの特性や困りに応じた効果的な活用	P7
書く力の育成	・児童生徒の「書く能力」は全国を上回っているものの、「指定された構成で文章を書くこと」や「根拠を明確にして書くこと」等に課題が見られる。	9年間を見据えた系統的な指導	P8
		国語科と他教科等を関連付けた指導の工夫	P8
関連する本市の施策等			P9

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

## はじめに

学校教育における質の高い学びを実現し、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるために、「主体的・対話的で深い学び」\*の実現に向けた授業改善が必要です。

### 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

### 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

### 深い学び

習得・活用・探究の学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

\*授業改善のための視点であり、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で、実現していくものです。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善のポイントを本市の実情に応じて具体化したものが、「大分市 授業づくりの5つのポイント～新大分スタンダードを踏まえた取組の重点～」です。



## 大分市 授業づくりの5つのポイント

～新大分スタンダードを踏まえた取組の重点～

### 授業構想時のポイント

- ① シンプル指導案や板書計画作成による授業の構想
  - ・子どもの実態と小中学校9年間の系統性を踏まえた教材分析
  - ・校内における「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の共通理解



### 授業時のポイント

- ② 見通しと振り返りのある問題解決的な授業展開(生徒指導の3機能を意識)
  - ・導入では、課題解決に向け、見通しをもち、主体的に取り組むための手だての工夫
  - ・展開では、目的を明確にしたペア・グループ学習の実施、考えを広げ深める思考ツール等の活用
  - ・終末では、本時の学びを振り返り、自分なりの考えをまとめ、表現する活動の充実(書く力の育成)
- ③ 学力調査結果等の分析を踏まえ、単元、内容等に応じた少人数指導・習熟度別指導等の実施

### 授業後のポイント

- ④ 授業観察、互見授業等を通じた教科部会等の充実による授業力の向上
- ⑤ 学習内容の確実な定着を図る取組の充実
  - ・授業と連動した家庭学習の実施(質と量の確保)



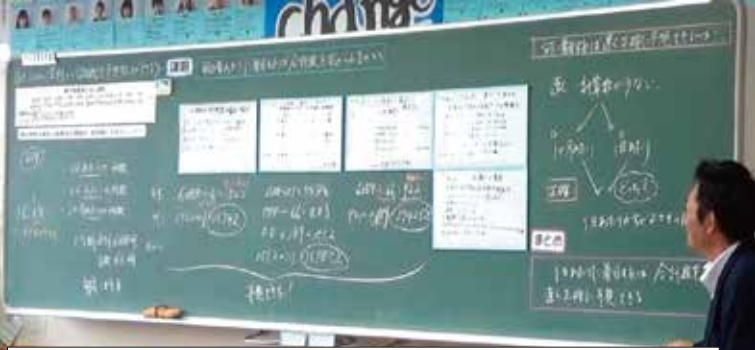


# 取組のポイント3

## 授業力向上に向けて、授業研究、互見授業等を通じた教科部会等を充実させましょう

(授業後のポイント)  
 授業力(①子ども理解力②授業構想力③授業展開力)を高めるためには、より多くの互見授業等を通し、「見合う、語り合う、高め合う」ことを繰り返すことが大切です。

- 授業力とは・・・
- 子ども理解力・・・子どもを把握・理解する力
  - 授業構想力・・・授業を構想・評価する力
  - 授業展開力・・・授業を実践・展開する力 (大分市教育センター研修資料より)



**見合う**  
 互いの授業を見合せて、授業の工夫等を学び、授業改善を図りましょう。  
 ※「何を見るのか」等の視点をそろえておくことや授業の導入や終末の振り返りなど、気軽により多くの場面を見合えるようにすることも有効です。

**語り合う**  
 互いの授業のよさや工夫について意見交換をすることで、授業力を高めましょう。  
 ※授業観察カードや授業力自己評価シート等を活用した事後研も有効です。



ポイント	授業者の主観	チェック項目	チェック欄(観察者)	アドバイス(改善点等)
ユニバーサルデザインの授業		①課題(めあて)を位置付けている 教師は「課題(めあて)」を明確に位置付けているか。		
		②課題(めあて)とまとめ(振り返り)とを対応させている。 教師は課題(めあて)と評価したまとめ(振り返り)を位置付けているか。		
		③構造的な板書を行っている。 教師は、学びの通しが見える板書の構造化を行っているか。		
問題解決的な学習活動の展開	○	④学ぶ意欲を引き出す課題の設定をしている。 教師は子どもが「考えてみたい」「やってみよう」と思うような課題を設定しているか。		
		⑤課題解決のための見通しをもたせている。 教師は課題設定のための具体的な見通しをもたせているか。		
生徒指導の3機能	○	⑥適切なまとめをしている。 教師は子どもに発表や交流を行いながら、適切なまとめを行っているか。		
		⑦自己決定の場の設定を行っている。 教師は子どもに課題に対する自分の考えをもたせているか。		
		⑧自己存在感を与えている。 教師は、子ども一人ひとりの活躍(発表・発言)を保障し、達成感をもたせているか。		
		⑨共感的人間関係を築かせている。 教師は子どもに考えを交流させ、他者を認め合い、励まし合い新しい考えを生み出させているか。		
その他全体的な感想				

**高め合う**  
 授業力向上に向けて、各学校の校内研修や日々の自己研鑽を通して、学び合ひましょう。

指導主事や中学校における教科指導員(マイスター)を十分活用するなど、自分の授業を積極的に見直しましょう。



子ども理解力	自己課題の現状	改善に向けての具体的な方策	研修後自己評価
授業の目標 児童・生徒の定着・到達 レベル 授業の展開 主観的に学習に 取り組んでいるか 学習指導要領の 理解 評価 指導方法 学習過程			
授業の目標 児童・生徒の定着・到達 レベル 授業の展開 主観的に学習に 取り組んでいるか 学習指導要領の 理解 評価 指導方法 学習過程			
授業の目標 児童・生徒の定着・到達 レベル 授業の展開 主観的に学習に 取り組んでいるか 学習指導要領の 理解 評価 指導方法 学習過程			

**迷ったときは  
こちらに!**

●大分市教育センター  
 T-LABO、放課後講座



# 各種学力調査の活用

## 取組のポイント 1

### 調査結果の分析による課題を共通理解しましょう

各種学力調査の活用にあたっては、結果の分析により、明らかになった成果や課題を、調査対象学年や教科担当だけでなく、学校全体で共有し、日々の授業改善や今後の学力補充の具体的な手だて等に活用することが大切です。

#### まずは、全教職員で調査問題を解くことから始めよう!

どのように思考・判断し、どのような記述の力が必要かを体感し、調査問題の趣旨(イメージ)を確認することが大切です。

#### 結果の分析をし、子どもたちの弱点を知ろう!

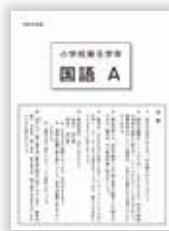
正答率を見るだけでなく、誤答傾向や不十分な解答にヒントがあります。

#### 日々の授業改善や今後の学力補充の手だて等に活用しよう!

学び直しや補充学習等で、再度指導しましょう。

#### こんな例もあります!

◇小中合同研修会で調査問題を解く(野津原中学校区)  
全国学力・学習状況調査問題を国語と算数・数学の2部会に、分かれて解いてみました。小中の教職員で互いに解くことにより、身に付ける力や授業で重視すべきことを共有するなど、9年間を見通した指導の在り方について理解を深めることができます。



各種学力調査の結果や子どもたちによる授業評価から、教師自身の指導の在り方を振り返り、今後の指導にいかすといいいですね。

「選択肢式」問題では、誤答が特定の選択肢に集中している場合は、誤った理解が定着していると考えられます。また、誤答の選択肢が分散している場合は、理解が曖昧な状態にあると考えられます。

## 取組のポイント 2

### 結果分析を踏まえ教育課程を改善しましょう

各種学力調査の結果分析から、課題の見られる領域については、学年間や学校段階間で内容の系統性を重視し反復による指導を行うとともに、各教科等の関連した部分を相互に関係付けながら学校教育全体を通じて指導の充実を図ることが大切です。

#### 全学年を通じて、年間の見通しを立てよう!

課題の見られる領域については、指導時間数を増やしたり単元末に補充学習の時間を設定したり工夫しましょう。

#### 調査問題や調査結果を活用した授業を構想しよう!

「指導資料」や「全国学力・学習状況調査授業アイデア例」を授業づくりのヒントにしましょう。

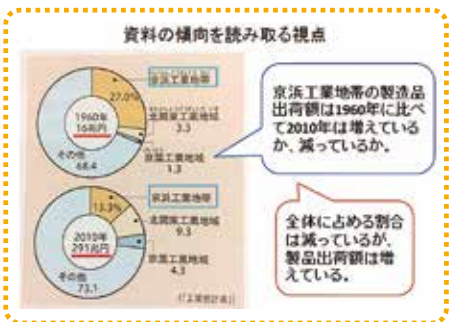
<年間指導計画例>

1月(15時間)	14 割合とグラフ 比べ方を考えてグラフに表そう P. 58~77	割合 百分率
	15 正多角形と円 円をくわしく調べよう	折正

<大分市教育委員会作成の指導資料例>



<グラフを的確に読み取る指導例>



年間指導計画の中に課題を明記(朱書き)しておくといいいですね。



社会科だけでなく、他教科等の学習においても、グラフを活用して問題を解決する場面は多くあります。

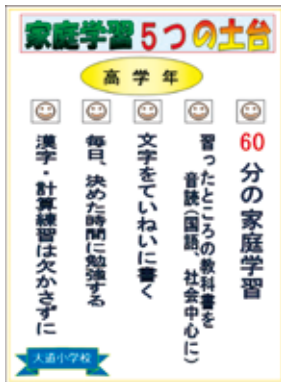
# 家庭学習の充実

## 取組のポイント1

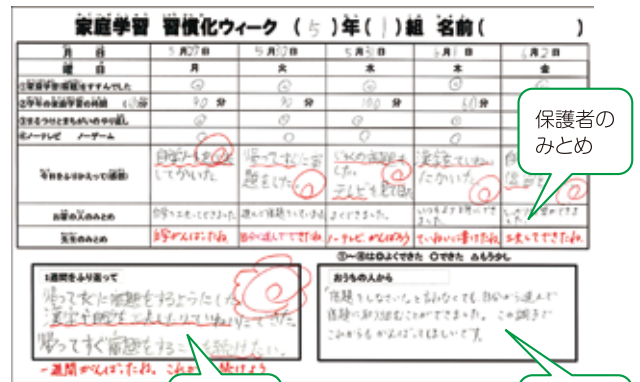
### 保護者と連携し、家庭学習を習慣化させましょう

家庭学習を習慣付けるためには、保護者との連携が大切です。宿題の意義や自校の宿題の方針を、学校全体で確認したうえで保護者に伝え、理解と協力を得られるようにしましょう。

#### 家庭学習の手引きの活用



#### 家庭学習計画表の活用



各学校や中学校区等で作成した「家庭学習の手引き」を活用して、学級懇談会や通信等で協力を呼びかけましょう。



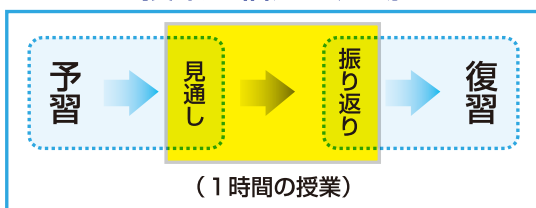
日によって宿題の分量が偏らないよう、例えば中学校においては、各教科等の課題を教室内の黒板に記入するなど、教科担任間で共通理解を図りましょう。

## 取組のポイント2

### 子どもの学習状況に応じ、家庭学習の質の向上に努めましょう

より充実した家庭学習とするためには、授業での学習内容と関連付けることが大切です。家庭学習時間の確保に加え、家庭学習の内容や効果的な与え方等について校内で協議し、質の向上に努めましょう。

#### 授業と宿題の連動



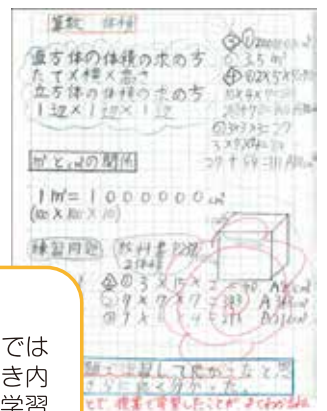
予習は、授業において「何を学ぶのか」を理解する見直しにつながり、復習は、「何を学んだのか」を実感できる振り返りにつながります。子どもが「宿題をすることで授業で学んだことをより理解できた」、「宿題をしてきたら授業がよく分かった」と実感できるようにしましょう。

目的や内容によっては、習熟の程度に応じた出し方をすることで、子どもの学ぶ意欲の向上につながります。宿題プリントの裏側にチャレンジ問題をつけて、意欲の喚起を図るなど、個に応じた取組となるよう工夫しましょう。



#### 宿題の点検・評価

宿題を点検し、励ましやねぎらいの言葉を書き添えるなどの評価を行い、子どものやる気を引き出しましょう。また、個々の優れた取組を全体で紹介するなど、質の向上につながるよう工夫しましょう。



**<自主学習ノートの留意点>**

内容や分量等、子どもにすべて任せるのではなく、各学年の実情に応じて取り組むべき内容を一覧表で示すなどし、質の高い自主学習をめざしましょう。

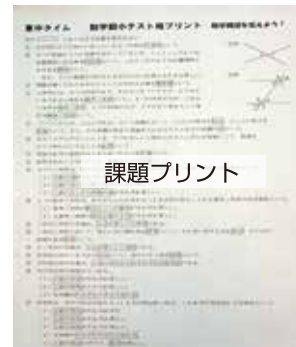
	国語関連	算数関連	理科・社会・他
4年生	・漢字ドリル・プリント ・国語辞典、漢字辞典を使った意味調べ	・計算、文章題練習 ・問題づくり ・面積角度調べ	・理科や社会の調べ学習 ・授業の復習
5年生	・漢字ドリル・プリント ・短歌、俳句、詩、作文読書記録など	・百マス計算 ・問題づくり ・立体の見取り図、展開図、体積調べ	・理科や社会の調べ学習 ・実験のまとめ ・パソコンでの調べ学習

# 放課後や長期休業等を活用した補充学習の充実

## 取組のポイント 1

子どもの実態を踏まえ、内容・方法を創意工夫し、計画的に指導しましょう

子どもの実態に基づき、始業前の朝の時間や放課後等の時間を活用した補充指導の充実に努めることが大切です。補充学習を効果的に進めていくためには、〈実態把握→課題の作成→取組状況の確認→評価テストの実施→補充学習〉のサイクルを確立し、計画的・継続的に進めていきましょう。



- 中学校の例**
- 月：(朝) 国語評価テスト
  - 火・水：(放課後) 補充学習
  - 水：数学課題プリント配布
  - 木・金：(朝) ドリル学習
  - ↓ 翌週
  - 月：(朝) 数学評価テスト
  - 火・水：(放課後) 補充学習
  - 水：社会課題プリント配布

- 小学校の例**
- 月：朝読書
  - 火：スキルタイム
  - 水：朝読書
  - 木：読み聞かせ (放課後) 補充学習
  - 金：集会

学校や子どもの実態に応じて、課題を設定して取り組むことが大切です。



## 取組のポイント 2

習熟の程度に応じた課題を設定し、個別指導にいかしましょう

「努力を要する」状況の子どもには、個別のつますきに配慮した指導が大切です。このため、放課後や長期休業中の個別指導が広く行われるようになっていますが、中学校では部活動等もあり、取組を工夫することが求められます。例えば、各種学力調査や単元末診断テスト等の結果を分析し、課題が見られる項目に重点を置くなど、テーマを焦点化した個別指導を特別に組んだり、子どもの習熟度や興味関心を踏まえたコース別の個別指導を設けたりするといった工夫が考えられます。

- 放課後は・・・**  
日替わりで教科や課題を絞った質問教室等を開催し、個別に指導できるシステムを構築する。
- 長期休業中は・・・**  
単元末診断テスト等から把握したつますきの状況を踏まえ、克服に向けて、個別に指導を行う。

フォローアップワークシートや学習探検ナビ等を活用しましょう。



<放課後の質問教室>





# ICTの効果的な活用

## 取組のポイント①

### ねらいに応じて活用場面や方法を工夫しましょう

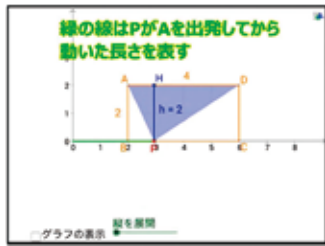
ICTの活用に当たっては、指導のねらいを明確にもっておくことが大切です。単に授業でICTを活用すれば教育効果が期待できるのではなく、ICT活用の場面やタイミング、方法等、教科の目標や子どもの実態に応じて創意工夫することによって、効果的な活用を行うことができます。

#### 事例① 興味・関心を高めさせたいとき



電子黒板等で大きく映して学級全員で共有することにより、題材のイメージを膨らませたり、驚きや感動を与えたりすることができます。

#### 事例② 課題をしっかりとつかませたいとき



シミュレーションソフトやグラフ作成ソフトを活用することにより、点や線の動きに着目させたり、条件が異なる場合を確認させたりすることができます。

#### 事例③ 発表や話し合いをさせたいとき



タブレットPCや電子黒板を活用した発表や話し合いにより、絵図や表、グラフ等を用いて分かりやすく説明したり、効果的に表現したりする力を高めることができます。

ICTを有効かつ適切に活用するためには、日頃から子どもの実態把握、授業における活用のタイミング、発問、指示や説明といった従来からの授業展開の工夫・改善に努めることが重要です。



## 取組のポイント②

### 子どもの特性や困りに応じて視覚的な提示を工夫しましょう

学習に苦手意識や困りを抱える子どもたちへの支援や指導を充実させる手段として、ICTの活用に大きな期待が寄せられています。学習面や生活面でのつまずきを的確にとらえ、子どもたちが自分の力を十分に発揮できるよう効果的な活用に努めることが大切です。

一番困っているのは子ども本人であることを理解し、子どもの学習スタイルに合った方法で学習内容にアクセスできるようにすることが大切です。これは合理的配慮の観点からも必要なことです。



#### 事例① 細かな作業や操作を説明したいとき



実物投影機とプロジェクタで手元の作業を大きく映すことにより、指示を明確にしたり、正しい使い方や手順を理解しやすくしたりすることができます。

#### 事例② 理解を深めさせたいとき



「ぼうけんくん」(小学校のみ)の撮影機能により、簡単に動画を記録・編集することができます。複雑な事象や仕組みについて実感を伴って理解を深めさせることができます。

#### 事例③ 集中させたいとき



時間管理のためにタイマーやアラームを表示することにより、活動の区切りを視覚的に示すことができます。班活動や個人作業中の活動時間の目安として示すと有効です。



迷ったときは  
こちらに!

実践事例や  
動画素材を  
多数掲載!

- 大分市教育センター T-LABO
- 校務用パソコン学習探検ナビ
- 校務用パソコン情報教育フォルダ

#### ICT支援員の活用例

- ・授業の開始前に、必要な機器を設置し、機器・ソフトウェアの起動をしたり、使用する画像や文書等のファイルを開いておいたりする。
- ・体育の授業で、自分のフォームを見ながら学習する場面で、デジタルビデオカメラとコンピュータの接続や録画・再生の設定、操作をする。
- ・教員の説明に関連させて、教材を実物投影機とプロジェクタで大きく映したり、動画を途中で止めたり戻したりしながら提示する。等

# 書く力の育成

## 取組のポイント1

### 指導事項を明確にし、9年間を通して、系統的に指導しましょう

子どもたちの書く力は、小学校6年間、中学校3年間を通じた指導を積み重ねていくことにより、形成されていきます。子どもたちの発達段階に応じ、当該学年でどのような力を育てるのか、指導者が見通しをもって取り組むとともに、指導事項に応じた適切な言語活動を設定し、子どもたちの書く力を系統的に育成することが大切です。

#### <評価規準の設定例>

作品の魅力について、表現のよさや受けた印象を、絵画の具体的な特徴と結び付けて書いている。

#### <言語活動の設定例>

好きな絵画の魅力や鑑賞文でお互いに伝え合おう。



学習指導要領に示す指導事項は、大綱的に示しているため、指導に当たっては、当該単元で指導する指導事項をより具体化する必要があります。例えば、中1で右図に示した指導事項を取り上げて指導する場合、根拠を明確にして書く方法は、書かせる文章の種類によって異なります。上図のように、当該単元で設定した言語活動に応じ、ゴールとなる姿をより具体化し、評価規準として設定することが大切です。

「書くこと」ウの指導事項(思考力、判断力、表現力等)  
(新学習指導要領より 一部改)

中2

- ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加える
- ・表現の効果を考えて描写する

中1

- ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する

小5,6

- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする
- ・事実と感想、意見とを区別して書く

小3,4

- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書く

## 取組のポイント2

### 国語科と他教科等の指導を関連付け、計画的に指導しましょう

子どもたちの書く力は、習得、活用を繰り返す中で、より一層高まっていきます。下の図のように、国語科においては、書く力の習得をねらいとし、計画的、意図的に指導するとともに、他教科等においては、国語科で習得した書く力が当該教科等のねらい達成の手段として、応用的、必然的に活用できるよう、学習活動を工夫することが大切です。

例)小学校3年生では

#### 国語科(習得)

【学習活動】身の回りにある記号を調べ、報告する文章を書こう

【指導する書く力】調べたことを報告する文章は、「①調べたきっかけや理由 ②調べ方 ③調べて分かったこと ④感想」の組み立てで書く

#### 社会科(活用)

【学習活動】お店の様子や工夫していることを調べ、国語科で学習した報告書の様式に沿ってにまとめ、お互いに交流しよう



書く力の一層の向上

例えば、中学校1年生においては、国語科「鑑賞文を書く」において学んだ「根拠を明確にして伝える工夫」を、音楽科や美術科の授業における鑑賞で活用するなどの工夫が考えられます。



他教科での指導に当たっては、国語科での学習を容易に振り返ることができるよう、学習したことを「書く時のポイント」として教室に掲示したり、国語科で作成した成果物を参考にさせたりすることが大切です。



迷ったときは  
こちらに!

- 大分市小中学生 卒業レポート作成に係るリーフレット ~つなごう! 自分と社会と夢を~
- 大分市小中学生 卒業レポートプロジェクト取組事例集



## P3

### ■大分市教育センター

- ①放課後講座 平成29年度16講座(82セミナー)開講  
(問合わせ 大分市教育センター 研修担当班 TEL537-5588)
- ②T-LABO(大分市教育センターホームページ内のコンテンツ)  
教職員の優れた指導「実践きりり!」10本  
わかる授業「ワンポイント指導」 75本配信中(H29.9.1現在)

### ■「教科指導マイスター派遣事業」

教科指導員を各中学校等に派遣し、教科指導に関する指導・助言を行い、教員の授業力を向上させることにより、生徒の学力の定着・向上を図ります。  
(平成29年度 教科指導員 数学科3名、英語科3名、理科2名)

## P4

### ■「大分っ子基礎学力アップ推進事業」

- ①標準学力調査の実施  
小学校4年生、中学校1年生を対象に、標準化された学力調査を実施し、子どもの学力の状況を客観的に把握・分析することにより、各学校における継続的な指導の工夫改善にいかします。  
(平成29年度 小学校4年生 国語、算数、理科 中学校1年生 国語、数学、英語、理科、社会)
- ②指導資料の作成及び活用  
各種学力調査における本市の教科別の偏差値平均や平均正答率等の結果、分析・考察、改善のポイントなどをまとめた指導資料を作成し、各学校において基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導の充実・改善にいかします。  
(大分県学力定着状況調査(9月頃)、全国学力・学習状況調査(10月頃)、大分市標準学力調査(2月頃)大分市ホームページへ掲載予定)

## P6

### ■「大分っ子学習力向上推進事業」

- ①個別指導や習熟度別指導を行う非常勤講師を配置しています。  
(平成29年度21名配置)
- ②小学校の複式学級において、学年別や課題別の指導を行う非常勤講師を配置しています。  
(平成29年度4名配置)

## P7

### ■「ICT校内研修支援事業」

校内研修の時間およびテーマを設定して、年に1回以上の校内研修を支援しています。  
コンピュータ及び情報ネットワーク等を有効活用した学習の場の紹介、提案を行います。

- ①情報モラル講座  
児童生徒、教職員などを対象に情報モラル講座を行います。
- ②情報の積極的な発信の支援  
学校公開、学校ホームページ等を通じた情報の積極的な発信の支援を行います。

## P8

### ■「卒業レポートプロジェクト取組事例集」の作成・配布

平成28年度における各学校の「卒業レポートプロジェクト」の取組を紹介したパンフレットを作成しています。児童生徒がレポートを作成する際のモデルとして、また指導上の参考として活用願います。

チェック項目	
① 授業の前には、シンプル指導案や板書計画等を作成していますか？	
② 「見通し」と「振り返り」のある授業づくりに心掛けていますか？	
③ 授業研究、互見授業に意欲的に取り組んでいますか？	
④ 各種学力調査等の分析を授業改善にいかしていますか？	
⑤ 家庭学習について、教職員、保護者等と連携していますか？	
⑥ 習熟の程度に応じた補充学習や個別指導に取り組んでいますか？	
⑦ 授業において、ICTを効果的に取り入れていますか？	
⑧ 授業において、「書く力の育成」を意識した活動を取り入れていますか？	

自分自身の「授業づくり」を  
振り返ってみましょう！



名前

---